

平成24年度第2回沖縄県がん診療連携協議会議事要旨

日 時	平成24年7月6日(金) 13:00~15:55		
場 所	管理棟3階 大会議室		
構 成 員	35名	出席者25名	欠席者 10名
1号委員 (病院長)		村山 貞之	
2号委員 (地域がん診療連携拠点病院長)		宮城 良充 (県立中部病院長) (欠席)	
		照喜名 重一 (那覇市立病院長) (欠席)	
3号委員 (がん診療連携支援病院長)		諸喜田 林 (北部地区医師会病院長)	
		安谷屋 正明 (県立宮古病院) (代理) 本永英治	
		松本 廣嗣 (県立八重山病院長) (欠席)	
4号委員 (沖縄県医師会長)		宮城 信雄 (代理) 上原貞善	
5号委員 (沖縄県歯科医師会長)		比嘉 良喬 (欠席)	
6号委員 (沖縄県薬剤師会長)		神村 武之	
7号委員 (沖縄県看護協会会長)		奥平 登美子 (欠席)	
8号委員 (沖縄県政策参与)		玉城 信光	
9号委員 (沖縄県福祉保健部長)		崎山 八郎 (欠席)	
10号委員 (がんセンター長)		増田 昌人	
11号委員 (医療福祉支援センター長)		村山 貞之 (代理) 新垣久美子	
12号委員 (薬剤部長)		宇野 司 (代理) 山内祐子	
13号委員 (看護部長)		下地孝子	
14号委員 (事務部長)		原田 隆治	
15号委員 (各拠点病院より2名)		玉城 和光 (県立中部病院血液・腫瘍内科部長) (欠席)	
		上田 真 (県立中部病院乳腺外科部長)	
		友利 寛文 (那覇市立病院外科部長)	
		宮里 浩 (那覇市立病院外科部長) (欠席)	
16号委員 (各支援病院より1名)		柴山 順子 (北部地区医師会病院看護部長)	
		長嶺 直治 (県立宮古病院外科部長) (欠席)	
		上盛 厚子 (県立八重山病院副看護部長)	
17号委員 (患者関係の立場の者)		田名 勉	
		片倉 政人	
		安里 香代子	
18号委員 (有識者)		埴岡 健一 (特定非営利活動法人日本医療政策機構理事)	
		儀間 多美子 (ジャーナリスト)	
		天野 慎介 (特定非営利活動法人グループ・ネクサス理事長)	
19号委員 (琉大病院長が必要と認める者)		砂川 元 (琉大病院歯科口腔外科長) (代理) 新垣敬一	
		加藤 誠也 (琉大病院病理部長) (欠席)	
		須加原一博 (琉大病院麻酔科長) (代理) 淵上竜也	
		西巻 正 (琉大病院第一外科長) (代理) 狩俣弘幸	
		百名 伸之 (琉大骨髄移植センター長)	
陪席者		前川 守秀 (沖縄県福祉保健部医務課医務医療班主任)	
		比嘉 和也 (沖縄県福祉保健部医務課医療対策班主事)	

資料確認 増田委員から資料の確認があった。

議事要旨・議事録の確認 増田委員から議事要旨・議事録の説明・確認があった。

- ・議事要旨の確認 増田委員から資料1の第2回幹事会議事要旨(平成24年6月11日開催)の確認があった。
- ・議事要旨の確認 増田委員から資料2の第1回協議会議事要旨(平成24年5月18日開催)の確認があった。
- ・議事録の確認 増田委員から資料3の第1回協議会議事録(平成24年5月18日開催)の確認があった。

報告説明事項

1. 沖縄県がん診療連携協議会・幹事会・部会委員一覧

増田委員から資料4に基づき説明があり、宮古病院から奥平先生、八重山病院から山本先生が普及啓発部会委員にそれぞれ推薦があった旨の報告があった。

2. 平成24年度幹事会及び協議会の開催について

増田委員から資料5に基づき、次回(第3回、第4回)開催予定の協議会について報告があった。

3. 天野委員からの報告

天野委員から資料6に基づき説明があり、小児がんの拠点病院についての厚生労働省での議論の進捗について、国の第2期のがん対策推進基本計画が閣議決定され、それを受ける形で基本計画の中で幾つかの検討会が新たに立ち上がった旨の説明があった。

「小児がん医療・支援のあり方に関する検討会」が6月下旬に設置されたが、主な開催要綱は次のとおり。

・趣旨

小児がん患者とその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備を目指し、小児がん拠点病院(仮称)に必要とされる機能及び全国の小児がん関連施設に対する診療、連携、臨床試験の支援等の機能を担う中核的な期間のあり方等について検討する。

・検討事項

- (1) 小児がん拠点病院(仮称)に必要とされる機能について
- (2) 小児がんの中核的な機関のあり方について

・国の予算は、およそ5億円ということから、小児がん拠点病院の当面必要な数として、概ね10医療機関程度と定められている。これは当面、地域のブロックごとに1～3機関設置することになっていて、ブロックについては北海道から九州までのブロックが定められており、それぞれのブロックごとに1～3程度の拠点病院が置かれる予定になっている。

・拠点病院の要件については、P6-6から記載されているが、拠点病院に求められている診療実績としては、造血器腫瘍については年間新規症例数が10件程度以上、固形腫瘍については年間新規症例数が10件程度以上と定められている。

審議事項

1. 沖縄県がん対策推進基本計画(協議会案)について(がん政策部会)

天野委員から資料7に基づき、次期沖縄県がん対策推進計画(協議会案)の策定スケジュールの経緯等について報告があった。

村山議長から意見等がある場合は、「第2回沖縄県がん診療連携協議会(案)に関するご意見」に基づき記載の上、琉大のがんセンター事務局にメール等で送信願いたい旨の説明があった。

- ・次期沖縄県がん対策推進計画(協議会案)に係る各部会からの説明等
- (1) がん医療

①放射線療法、化学療法、手術療法のさらなる充実とチーム医療の推進（研修部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-1について説明があった。

主な内容：研修部会では、この領域に関しては3つに集約した旨説明があった。

- ①主にインフォームド・コンセントとセカンドオピニオンについて
- ②今回、新しく始まる歯科との連携について
- ③手術、放射線、そして化学療法の充実について

②がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成(他の分野の人材育成含む)(研修部会)

増田委員（がんセンター長）からP7-2について説明があり、研修部会では各部会ごと、ないしは各テーマごとに概ね5つの項目で集約した旨説明があった。

③がんと診断された時からの緩和ケアの推進（緩和ケア部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-3について説明があり、5つの活動を最終的に絞り込んだ旨説明があった。

④地域の医療・介護サービス提供体制の構築・在宅医療（地域ネットワーク・緩和ケア部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-4について説明があり、地域ネットワーク部会と緩和ケア部会の合同作業を行い、地域の医療・介護サービス提供体制の構築・在宅医療というくくりで5つの目標をたてた旨説明があった。

⑤医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組（地域ネットワーク部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-5について説明があり、最終的な目標成果としては、がん患者に有効で安全な医薬品、医療機器を迅速に提供できるよう新しい医療機器や医療品が発売日から県内で使用することができる旨説明があった。

⑥その他

・病理診断（がん政策部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-6については、がん政策部会に割り当てられたが、病理診断に変更された旨説明があった。

・リハビリテーション（がん政策部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-7について説明があった。

・希少がん（地域ネットワーク部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-8について説明があった。

主な質疑応答

- ・診療連携協議会の中でいろいろ部会があるが、全部医療者のみの部会で、患者関係者は入っていないのか。（安里委員（がん患者会連合会））
- ・今年度から患者関係者は入らないことになった。（増田委員）
- ・これまでのように患者関係者が入っていたのをすべてなくした場合は、医療者重視の協議会になりませんか。（安里委員（がん患者会連合会））
- ・各部会のディスカッションには患者関係者は入らないが、協議会に患者関係委員3人もいるので、患者関係委員のご意見を十二分に取り入れて骨子としたいと考えている。（増田委員）
- ・医療者重視の部分がすごく多くて、この中でがん患者さんへ実際に補助もなく、しかも情報も十分に伝わらなければ、医療者がかなり頑張っても、患者さんに届くには厳しい内容と考えるがどうか。（安里委員（がん患者会連合会））
- ・数値については、それぞれの実現可能性について部会でディスカッションしているので、数値が妥当性を持つかどうかは、おそらく横の連携を見て、今後、この協議会も含めてディスカッションをしていくことが必要だと思っている。（天野委員）

- ・例えば放射線や化学療法は、実際に患者会に寄せられるもの、アンケートや課題の中では、金銭的に大変苦しくて、途中で治療を放棄するという方もかなりいる。
 そういう中で、こういう目標が入ってくると、患者の経済的なこともあり、また、そういう情報が十分に患者に届かないこともあるので、患者への助成や補助制度をもっと充実して欲しい。
 (安里委員 (がん患者会連合会))
 - ・治療の経済的負担については、すごく重要な点だと思っており、国のがん対策推進基本計画の策定の際には、がん患者の経済的な負担について、「次期沖縄県がん対策推進計画(協議会案)」の9番目にごん患者の就労を含めた社会的な問題として国が対応することになっている。
 また、情報提供という部分については、同計画の2番目の「がんに関する相談支援と情報提供」として国が対応することになっている。(天野委員)
 - ・部会にごん患者が入ってなくて、医療者だけの部会であれば、患者の声はどこで取り上げることになるのか。(安里委員 (がん患者会連合会))
 - ・患者参画ということは、患者さんの視点を取り入れていくということではとても重要である。
 例えば、経済的な負担の軽減が必要であるという施策が必要と出た場合に、それをがん医療という項目のところでふれるべきなのか、もしくはがん患者の就労を含めた社会的な問題のところで経済的な負担の軽減をふれるべきなのかは今後検討すべきである。(天野委員)
- (2) がんに関する相談支援と情報提供 (相談支援部会・沖縄県地域統括相談支援センターを含む)
 望月氏(相談支援副部長) からP 7-9に基づき説明があり、がん患者やその家族の方々ががん相談を希望すればいつでもどこでも質の高いがん情報の提供や相談が受けられ、よりよい治療法及び療養場所を選択することができることを目標に挙げた旨説明があった。
- (3) がん登録の推進 (がん登録部会・沖縄県がん医療の質の評価センターを含む)
 仲本氏(がん登録部会) からP 7-10に基づき説明があり、目標は3つで、そのための活動として4つ施策を立てた旨説明があった。
- (4) がんの予防 (がん政策部会)
 天野委員 からP 7-11に基づき説明があり、目標は3つで、そのための活動として5つ施策を立てた旨説明があった。
- (5) がんの早期発見 (がん政策部会)
 天野委員 からP 7-12に基づき説明があり、目標は3つで、そのための活動として5つ施策を立てた旨説明があった。
- (6) がん研究 (がん政策部会)
 天野委員からP 7-13に基づき説明があり、目標は2つで、そのための活動として3つ施策を立てた旨説明があった。

主な質疑応答

- ・がん予防とがん研究の項目においては、数値目標があまり示されていないが、沖縄の医療に即したがん予防、がん研究の数値目標的を入れてもらえるのか。(村山議長)
- ・数値目標が入っていないのはご指摘のとおりであり、沖縄県に即した数値目標を検討させていただきたい。(天野委員)
- ・ピアサポーター研修を受講した方たちが、実際にピアサポーターとしての役割をきちんと把握できていないと思われるので、研修内容を教えてもらいたい。(安里委員)
- ・ピアサポーター研修会は基礎研修会が2回行われて、トータル17名の修了者が出ている。
 役割をきちんと把握できていないピアサポーターがいるのであれば、研修会が機能していないということになりますので、それに関しては反省をしたい。(増田委員)

- ・医療者でがん経験者でピアサポーター、そういう方たちがピアサポーターの研修を受けているのはどういうことか。(安里委員)
- ・まだ始まったばかりで、私たちが調べた範囲内では、家族やご遺族に対するカリキュラムは別に必要と思われる。家族でのカリキュラムや遺族がピアサポートをする場合のカリキュラムというのは、多少プラスアルファが必要と思っているので、地域統括相談支援センターの陣容では多分対応が無理だと判断した。(増田委員)
- ・国から対がん協会に対して委託されているがんの総合相談研修にかかわるもので、プログラム策定事業と、ピアサポーターに対する事業があり、私は委員長の立場から簡単に補足説明したい。
ピアサポーターに対して期待されている声は非常に多種多様である。
例えば、ある団体やある方々から、ある程度レベルの高いことをしっかりと教えてほしいという期待のご意見もある一方で、そもそもピアサポートというものは、がん患者さん一人ひとりの患者ご自身の経験であるとか、そういったものを生かす形で、いわゆる草の根でやるべきものであって、レベルの高いものを設定するということは、ピアサポートの本来の趣旨に反するからやめてもらいたい、そういった相反するようご意見もいただいているので、そのピアサポートの研修に関しては現在、初級、中級、上級という形で、まずクラス分けをするプログラムを策定している状況である。(天野委員)

(7) 小児がん（地域ネットワーク部会）

百名委員からP7-14に基づき説明があり、目標は1つで、そのための活動として4つ施策を立てた旨説明があった。

(8) がんの教育・普及啓発（普及啓発部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-15に基づき説明があり、目標は3つで、そのための活動として4つ施策を立てた旨説明があった。

(9) がん患者の就労を含めた社会的な問題（相談支援部会）

望月氏（相談支援副部長）からP7-16に基づき説明があり、目標は1つで、そのための活動として5つ施策を挙げた旨説明があった。

(10) 離島・へき地対策（地域ネットワーク部会）

増田委員（がんセンター長）からP7-17に基づき説明があり、目標は3つで、そのための活動として3つ施策を立てた旨説明があった。

(11) 計画進捗管理など（がん政策部会）

天野委員からP7-18に基づき説明があり、目標は1つで、そのための活動として2つ施策を立てた旨説明があった。

主な質疑応答

- ・経済的な負担の軽減は、もともと就労がメインではなく、社会的な問題として提案されたという経緯があるので、国でできなかったことが沖縄県でどこまでできるのかは大変難しいところである。(天野委員)
- ・経済的な負担の軽減を図るうえでアウトカムまで書けないかもしれないけど、1つ項目をつくっても良いと思われるがどうか。(村山議長)
- ・わかりました。了解しました。(望月氏(相談支援副部長))
- ・目標成果で、県内で完結するとあるが、小児がん医療、支援のあり方に関する検討会の話で、特に手術は沖縄地区では福岡に集めて手術するという話が報道されており、そうなると県内で完結するというのは難しいと思われるがどうか。(上田委員)

- ・多分、沖縄県ですべてをカバーできるとは思っていないので、それは適切な医療資源を活用するという事で大丈夫と思われる。(増田委員)
- ・いわゆる難治とされている患者さんが、もし沖縄県でその患者の治癒が期待できないのであれば、確実に拠点病院、もしくは専門性の高い施設に紹介していただくことが必要だというのは今回の小児がん対策の一番肝だと思うので、確実に紹介されるのであれば、今の小児がんの取り組みの内容でも良いと感じた。(天野委員)
- ・今、東京でまとめて厚生労働省に出すいろんな書簡をつくっているが、基本的に日本全体が10ブロックか、あるいは8ブロックぐらいにして、沖縄は九州と一緒になると思われる。
また拠点病院という考えも、地域病院だけで全部仕分けするのは不可能だと思っているので、各地方によっては幾つかの病院で拠点ということができないかお願いしている。(片倉委員(がんの子供を守る会))
- ・11番の「計画の進捗管理」が入ったのはとても素晴らしいと思われるが、最初の計画にも達成ができるのかと思われる項目、数字設定もあり、その進捗状況とか、目標達成したのかという報告が中間になかったので、5年目に発表されるのかどうか教えてもらいたい。(上田委員)
- ・協議会として幾つかの部会で話し合ったことは、一応、平成26年度末でいったん取りまとめて、27年度の早い段階で評価をして報告書をまとめる。さらに見直しを行うことで話し合われたが、中間評価に関して、県は何か聞いているのか。(議長代理(増田委員))
- ・国の基本計画の中に入っているか覚えてないが、中間的な評価をする分には良いと思われる。
(前川氏(県福祉保健部医務課))
- ・P7-17の3に、「がん地域連携クリティカルパスを用いて離島地域で対応可能な手術療法、化学療法、緩和ケアを行う患者が増加する。」とあるが、地域連携クリティカルパスは実際にどれぐらいの方が登録して、どんな形で機能しているのか教えてもらいたい。(安里委員)
- ・3拠点病院合計してもまだ70例程度と思われるが、乳がんが一番進んでいると聞いている。(仲本委員)
- ・70例ぐらいと思われるが、例えば離島の場合ですと、地元の宮古病院や八重山病院で十二分いろんな検査ができるにもかかわらず、毎回毎回本島に来られている患者さんには、診療所でも十二分がんの経過観察はできるので、それを地元の診療所でお願するし、普段糖尿病や固形種を診ている先生にお願いしようということになっている。(議長代理(増田委員))

(途中 議長交代)

2. 沖縄県がん診療連携協議会部会の申合せについて

増田委員から資料8に基づき沖縄県がん診療連携協議会部会の申合せについて説明があり、審議の結果、提案どおり承認された。

報告事項

1. 「平成24年度がん診療連携拠点病院機能強化事業」に係る実施計画書の項目廃止について

増田委員(がんセンター長)から資料9に基づき説明があり、「平成24年度がん診療連携拠点病院機能強化事業」に係る実施計画書の項目廃止及び同事業に係る実施計画書の提出を依頼した旨報告があった。

2. 「がんサポートハンドブック第2版」の配布開始について(相談支援部会)

望月氏(相談支援副部会長)から資料10に基づき説明があり、それぞれ医療機関等には県から第2版が配布されている旨の報告があった。

3. 医療機能調査アンケートの結果報告について

増田委員(がんセンター長)から医療機能調査アンケートの結果については、ある程度県と調整した上で報告したい旨説明があった。

4. 第11回沖縄県がん対策に関するタウンミーティングの報告について(がん政策部会)

天野委員から資料12に基づき説明があり、5月20日(日)に浦添市てだこホールで開催され、4名から講演があった。得られた意見については、現在、策定中の沖縄県がん対策推進計画に関する協議会としての提案書に反映させていきたい旨の報告があった。

5. 第12回沖縄県がん対策に関するタウンミーティングの開催について(がん政策部会)

天野委員から資料13に基づき説明があり、7月7日(土)に浦添市てだこホールで第12回の沖縄県のがん対策に関するタウンミーティングを開催予定である旨の報告があった。

6. 「第2回メディア・セミナーin 沖縄」の報告について(普及啓発部会)

増田委員から資料14に基づき説明があり、5月19日(土)の午後3時から沖縄タイムス社で第2回メディア・セミナー&ドクターを開催した。次回は、9月頃を予定している旨の報告があった。

7. がんピアサポート普及啓発活動のイベントについて

増田委員から資料15に基づき説明があり、5月29日(火)の午後3時から琉大病院の2階のロビーで開催した旨の報告があった。

8. 緩和ケア研修会の報告と日程について(緩和ケア部会)

増田委員から資料16に基づき説明があり、5月19日(土)、20日(日)の2日連続でハートライフ病院が主催して、緩和ケア研修会を開催した旨の報告があった。

次回は、那覇市立病院が9月9日(日)と16日(日)に、沖縄県中部病院が11月25日(日)と12月2日(日)の予定でA日程、B日程という形で研修会を開催予定である旨の報告があった。

9. Skype(スカイプ)を用いたTV会議・Web会議について

増田委員から資料17に基づき説明があり、県立宮古病院とメイン会場である琉大病院を結んで、テレビ会議を行った。画面も音声も途切れることなくスムーズに行われたので、ほかの部会も順次、八重山病院と北部地区医師会病院も含めてこのような形で今後、会議を行っていききたいと思っている旨の説明があった。

10. その他

①安里委員から6月30日に宮古島でがん患者会連合会の主催でがんフォーラムが開催され、メディアなどで大きく取り上げられたこともあって、患者さんや医療者合わせて80名超す人数の参加があった旨の報告があった。詳細は新聞をご覧に願いたい。

②上田委員からピアサポーターの件ですが、研修会のカリキュラムとか、国で準備されているカリキュラムとか、患者会で考えているピアサポーターについて、次回ぐらいまでにデータをいただきたい。研修内容や目指していることも含めてお願いしたい。

・天野委員からカリキュラム等々に関しては、内部的に予定はあるが、まだ公開されていないのでご了承願いたい。9月30日に昨年度と同様に、ピアサポートに関するシンポジウムを開催する予定であり、その場で初級編のプログラムに対して広く公開させていただいて、皆様からご意見をいただく予定になっている。詳細に出せるかわからないが、現状は初級、中級、上級と大まかな骨子等について、前もってある程度は出せる旨の説明があった。

③天野委員から、資料9に基づき増田委員から説明のあった厚生労働省からの拠点病院機能強化事業費に関する実施計画書について補足説明したい。

厚生労働省からの通知について、5月11日に通知したものが5月28日に廃止されるにあたっては、沖縄県を含めて医療者、患者団体、議員の皆様及び多数の方々がこの通知に対してご意見を厚生労働省に上げられて、その結果、廃止ということになった旨説明があった。

④田名委員(がん患者連合会)からおきなわがんサポートハンドブックの件について、せっかくこんな素晴らしいハンドブックが仕上がっているにもかかわらず、本人の手元に届いてないというの

が現状であるので早めに配布してもらいたい。

- 新垣委員(琉大シエント)からシエントでも工夫して配布しているが、今、考えているのが入院患者さんに対して退院支援スクリーニングということと、退院支援計画書を看護部とシエントと共同で作成をしていて、がんの患者さんにはすべて支援計画書を退院のときまでにお渡しすることを6月13日からようやく始めた。一歩ずつ努力していきたい。
また、退院支援計画書は7日以内に作成するというところまでしかできないが、7日以内に患者さんの手元に渡すよう今後努力していきたい。

以上